作者： silence
2011年 9月 29日(木曜日) 10:53 -

韓国Samsung社『Galaxy S
II』の全世界における販売台数が1,000万台に到達した。500万台の突破から、わずか8週間で大台を達成したことになる。Galaxy S
IIは世界的には今年4月に販売が開始され、米国では8月末に、米Sprint社、米AT&T社、米T-Mobile社の各バージョンの販売が始まった。 Galaxy S
IIは、1.2GHzのデュアルコア・プロセッサー、HD動画を撮影できる800万画素のカメラ、4.52インチと大型で明るい「スーパーAMOLED」(スーパー有機EL)ディスプレーを搭載する。
Galaxy S IIの先行モデルである『Galaxy
S』もよく売れた機種で(日本語版記事)、発売から6カ月で販売数1,000万台を達成した。今年9月に店頭に登場した米Motorola社の『Droid Bionic』『 中華pad
』も、同じく米Google社の『Android』を搭載する待ち望まれた機種であり、記録的な販売数になる可能性を秘めているが、どうなるか言い切るにはまだ少し早い。 Galaxy S
II成功の前には、android タブレット 7インチ
プラットフォーム全体の人気上昇が報道されていた。米Nielsen社による米国の統計によると、過去3カ月のスマートフォン販売は、半数以上(56%)がAndroidフォンだ。また、スマートフォン所有者の43%がAndroidフォンを持っているという(6月の38%から増加)。2位の米Apple社はシェアが28%、3位の加Research In
Motion(RIM)社は18%であり、Google社はライバルに大きな差をつけている。
Androidプラットフォームには多勢という強みがある。大手の通信事業者ならどこでもAndroidフォンが手に入り、Galaxy S IIや『Nexus
S』のようなハイエンドのフラッグシップ機から、『Samsung Vitality』や中国Huawei
Technologies(華為技術)の『Impulse
4G』のような低価格機まで、現在約170種類ものモデルがある。QWERTY配列の物理キーボード、魅力的な大画面、4G通信、近距離無線通信(NFC)、ゲームのコントローラーなど、重視する点は人それぞれだとしても、だいたい誰の希望にもぴったりの機種がある。
Androidは、2010年に『iOS』を上回るようになった(日本語版記事)。そして2011年1月には、フィンランドNokia社の『Symbian OS』から、スマートフォン首位の座を奪取した。
その後Nokia社は、Symbianから、スマートフォン界では今のところ弱小な『Windows
Phone』に転換した(日本語版記事)。一方、『BlackBerry』利用者はAndroidやiOSへの流出が続いており、市場でのRIM社の影響力が弱まり続けている。
Androidプラットフォームには追い風が吹いている。ただし、『iPhone
5』の登場がどう影響するかは分からない。